

14: 多発性骨髄腫

1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 塚田 信弘	日本赤十字社医療センター	血液内科
岡本 真一郎	慶應義塾大学病院	血液内科
角南 一貴	独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター	血液内科
辻 正徳	千葉中央メディカルセンター	内科
吉原 享子	兵庫医科大学病院	血液内科
前田 猛	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院	血液内科
宮本 敏浩	金沢大学附属病院	血液内科
池田 宇次	静岡県立静岡がんセンター	血液・幹細胞移植科
石井 一慶	関西医科大学総合医療センター	血液腫瘍内科
高松 博幸	金沢大学附属病院	血液内科
藤原 弘	三重大学大学院医学系研究科	個別化がん免疫治療学分野
神田 善伸	自治医科大学附属病院・附属さいたま医療センター	血液科
高橋 勉	島根大学医学部附属病院	血液内科
淵田 真一	独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	血液内科
牟田 毅	広島赤十字・原爆病院	血液内科部
吉田 功	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	血液腫瘍内科
吉満 誠	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科	血液・膠原病内科学 血液・膠原病内科
青木 智広	名古屋大学大学院医学系研究科	分子総合医学専攻 病態内科学講座 血液・腫瘍内科学
河村 浩二	鳥取大学医学部	血液内科・臨床検査医学分野
小松 恒彦	帝京大学ちば総合医療センター	血液内科
山下 剛史	市立砺波総合病院	血液内科
上村 智彦	医療法人 原三信病院	血液内科
花村 一郎	愛知医科大学病院	血液内科
水野 昌平	愛知医科大学病院	血液内科
高見 昭良	愛知医科大学	内科学講座 血液内科
高橋 寛行	(独)神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター	血液・腫瘍内科
武内 正博	千葉県がんセンター	腫瘍血液内科
八木 秀男	奈良県総合医療センター	血液腫瘍内科
久納 俊祐	名古屋大学大学院医学系研究科	血液・腫瘍内科
深谷 真史	静岡県立静岡がんセンター	血液・幹細胞移植科

関口 康宣	埼玉県立がんセンター	血液内科
和田 暁法	富山大学附属病院	検査・輸血細胞治療部
菊池 拓	日本赤十字社医療センター	血液内科
山本 豪	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院	血液内科
板垣 充弘	広島赤十字・原爆病院	血液内科部
北川 順一	岐阜市民病院	血液内科
堺田 恵美子	千葉大学医学部附属病院	血液内科
島津 裕	京都大学医学部附属病院	次世代医療・iPS 細胞治療研究センター
塚本 祥吉	千葉大学医学部附属病院	血液内科
鈴木 一史	東京慈恵会医科大学附属病院	腫瘍・血液内科
萩原 将太郎	筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター	血液内科
皆方 大佑	自治医科大学附属病院	無菌治療部/血液科
横田 裕史	名古屋大学医学部附属病院	血液内科
西久保 雅司	神戸市立医療センター中央市民病院	血液内科
村松 彩子	京都第一赤十字病院	血液内科
阿久澤 有	獨協医科大学埼玉医療センター	糖尿病内分泌・血液内科
吉村 一樹	自治医科大学附属さいたま医療センター	血液科
岡田 耕平	札幌北榆病院	血液内科
志村 勇司	京都府立医科大学	血液内科
三村 尚也	千葉大学医学部附属病院	輸血・細胞療法部
李 政樹	名古屋市立大学病院	血液・腫瘍内科
大津 雅広	九州大学病院	血液腫瘍心血管内科
寺尾 俊紀	岡山大学病院	血液内科
前垣 雅哉	独立行政法人国立病院機構 米子医療センター	血液腫瘍内科
丸田 雅樹	愛媛大学医学部附属病院	第一内科
海老名 徹	青森県立中央病院	血液内科
木元 弥生	独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	血液内科
古林 勉	京都第一赤十字病院	血液内科
佐々木 宏和	名古屋市立大学病院	血液・腫瘍内科
鎧高 健志	金沢大学附属病院	血液内科
中村 直和	京都大学医学部附属病院	血液内科
黒田 純也	京都府立医科大学	血液内科
塩入 勇翔	千葉大学医学部附属病院	血液内科
芹澤 憲太郎	近畿大学病院	血液・膠原病内科
梶野 富輝	湘南鎌倉総合病院	血液内科
白石 貫馬	大阪大学医学部附属病院	血液・腫瘍内科
青木 一成	京都大学大学院医学研究科	血液・腫瘍内科学

石井 改	千葉大学医学部附属病院	血液内科、臨床試験部
岡本 晃直	藤田医科大学	血液内科
越智 俊元	愛媛大学大学院医学系研究科	血液・免疫・感染症内科学講座
小西 義延	京都大学医学部附属病院	血液内科
立田 卓登	青森県立中央病院	血液内科

2. 会議開催記録(2025年1月-12月)

日時	場所	会議内容
2025年3月1日	グランキューブ大阪	進行中の研究、新規の研究の立案について検討した。

3. メーリングリストによる意見交換 (メーリングリスト開設から 2025年12月末時点まで)

(1122)回

4. WGの今後の活動方針・抱負など

寛解導入療法が2剤→3剤→4剤と変化する中での自家移植の治療成績の変化などに注目して新規の研究を立案していく。細胞療法WG含め、他のWGとの共同研究についても立案していく。